

令和2年3月

## 畜産を学ぶ農業高等学校のアンケート調査について

### I. アンケート調査の目的

- (1) 本調査は、令和元年度多様な担い手育成支援事業において、若い人材の担い手の育成の場として期待される農業高等学校、特に畜産専攻の学科等を設けている農業高等学校（以下、「農業高校」と言う）に対し、生徒数や進路状況、実習活動の現状等を把握するため実施したものである。
- (2) アンケートの対象は、全国農業高等学校長協会の協力を得て、369の農業高等学校に対し、郵送でアンケート調査票を送付した。

### II. アンケートの調査項目

#### 【生徒数や進路状況】

- ・ 農業高校の生徒数（学年別、男女別）
- ・ うち畜産を学ぶ生徒数（学年別、男女別）
- ・ 平成30年度卒業生の進路状況（進学先、就職先別）

#### 【実習活動の内容】

- ・ 外部講師による授業等（外部講師の所属、授業内容、開催数等）
- ・ 地域の畜産農家等での実習（畜種、実習内容、開催数等）
- ・ 他の農業高校や大学との連携（大学等の名称 取組内容、開催数等）
- ・ 農業・食品関連企業との連携（企業・研究機関名、連携内容、開催数）

#### 【就農意欲を高めるために今後充実すべき取組】

### III. アンケート結果のとりまとめ

アンケートの対象の農業高校369校のうち回答を行った農業高校は239校（回収率64.8%）であり、このうち畜産系学科等のある農業高校から121校から回答が寄せられ、本調査のとりまとめはこの121校の調査内容を基に行った。

#### IV. 調査結果の概要

##### 1 畜産系学科等のある農業高等学校数

畜産系学科等のある農業高等学校（以下「農業高校」という。）は全国で121校であり、九州が25校と最も農業高校数が多い。

表1 畜産系学科のある農業高等学校数(全国・ブロック別)

	農業高校数
全国	121
北海道	13
都府県	108
東北	18
関東・東山	18
北陸	5
東海	11
近畿	14
中国	11
四国	4
九州	25
沖縄	2

##### 2 全校生徒数

畜産を学ぶ農業高校における全校生徒数は全国で49,560人であった。男子生徒は24,735人(49.9%)、女子生徒24,825人(50.1%)とほぼ同数であった。ブロック別にみると北海道、東北、四国、九州で男子生徒の割合がやや高く、関東・東山、東海で女子生徒の割合がやや高くなっている。

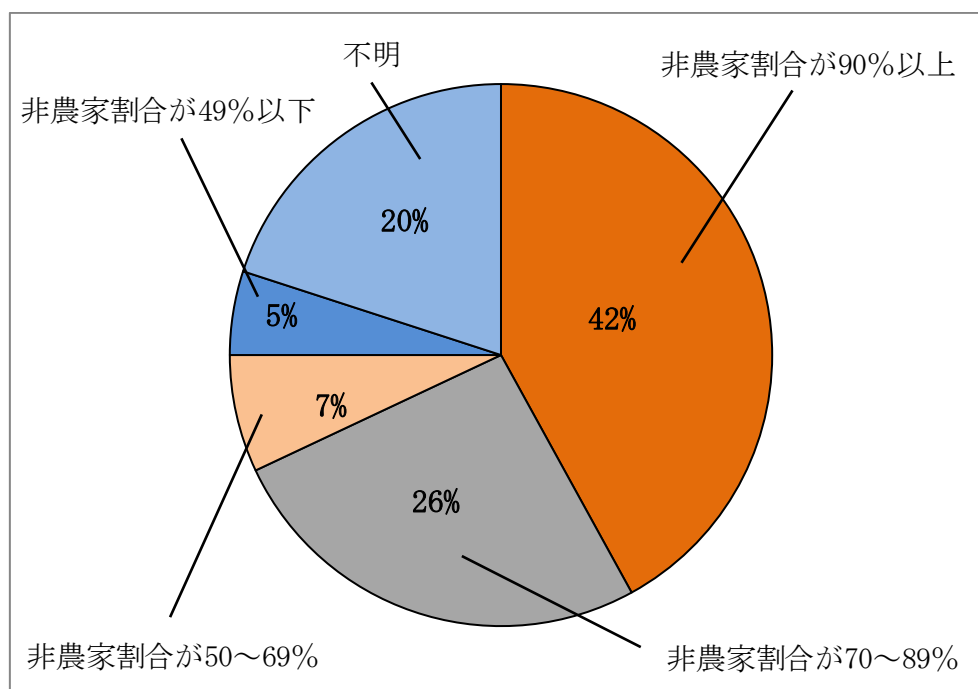
表2 畜産系学科等のある農業高等学校の生徒数男女比率(全国・ブロック別)

	農業高校数	全校生徒数(人)			構成比(%)	
			男	女	男	女
全国	121	49,560	24,735	24,825	49.9	50.1
北海道	13	3,723	2,100	1,623	56.4	43.6
都府県	108	45,837	22,635	23,202	49.4	50.6
東北	18	7,898	4,176	3,722	52.9	47.1
関東・東山	18	9,101	4,100	5,001	45.0	55.0
北陸	5	1,797	921	876	51.3	48.7
東海	11	6,365	2,841	3,524	44.6	55.4
近畿	14	5,428	2,529	2,899	46.6	53.4
中国	11	3,975	2,106	1,869	53.0	47.0
四国	4	1,307	733	574	56.1	43.9
九州	25	9,276	4,895	4,381	52.8	47.2
沖縄	2	690	334	356	48.4	51.6

### 3 生徒の非農家出身割合

生徒の非農家割合を見ると、「90%以上」が42%と最も多く、次いで「70～89%」が26%と70%以上が非農家出身である割合は68%と3分の2を占めている。特に東海では「90%以上」が8割を超えている。

図1 非農家割合別農業高校数（構成比）



これを、全校生徒に占める非農家出身生徒の割合別にみると、非農家出身生徒の割合が高い高校ほど女子生徒の割合が高い傾向がみられる。

表3 全校生徒に占める非農家出身生徒の割合別

男女別構成比(全国) 単位:%

		男子	女子
非農家出身割合	全国	49.9	50.1
	90%以上	46.5	53.5
	70～89	53.9	46.1
	50～69	56.4	43.6
	49%以下	57.3	42.7
	不明	50.3	49.7

#### 4 畜産を学ぶ生徒数

畜産を学ぶ生徒数は全国で 8,984 人で、農業高校の全校生徒数の 18.1% であった。また、1 校当たりの生徒数は 74 人であり、ブロック別にみると、東海が 102 人で最も多く、北陸が 50 人と最も少なかった。

1 校当たりの畜産を学ぶ生徒数を都道府県別にみると、最も多い県は埼玉県の 141 人、最も少ない県は大分県の 12 人であった。1 校当たり 100 人を超えた県は、青森県、秋田県、栃木県、埼玉県、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、大阪府の 9 府県であった。

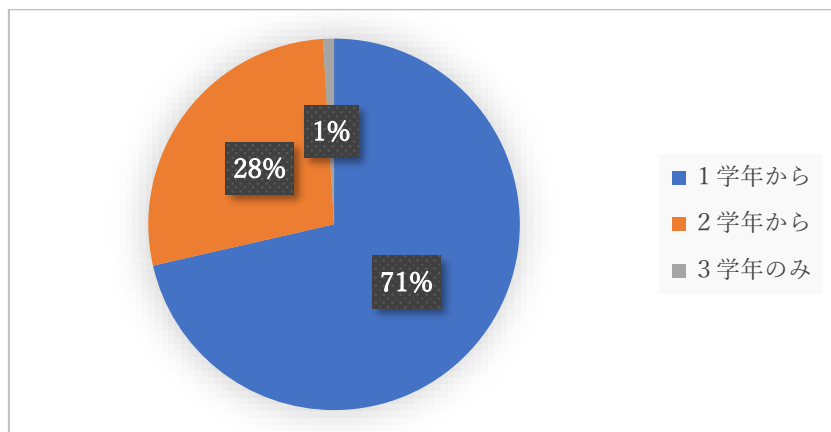
表4 畜産を学ぶ生徒数(全国・ブロック別)

	畜産を学ぶ生徒数(人)			1高校当たり 生徒数
	計	男	女	
全国	8,984	4,481	4,503	74
北海道	773	512	261	59
都府県	8,211	3,969	4,242	76
東北	1,560	771	789	87
関東・東山	1,523	619	904	85
北陸	250	137	113	50
東海	1,120	408	712	102
近畿	1,167	580	587	83
中国	756	408	348	69
四国	220	146	74	55
九州	1,483	820	663	59
沖縄	132	80	52	66

#### 5 畜産専攻の学年別農業高校数

畜産専攻の講座やコースを設けているのは、1 学年からが最も多く 86 校 (71%)、2 学年からが 34 校 (28%)、3 学年のみが 1 校 (1%) であった。

図2 畜産専攻の学年別農業高校数 (全国)



## 6 畜産系学科等の名称

畜産系学科の名称も農業高校の特徴を活かし、いろいろな名前がつけられている。これを便宜的に「畜産系」、「動物系」、「その他」に分類すると、「その他」が最も多く 56 校 (46.3%)、次いで「畜産系」の名称が 37 校 (30.6%)、「動物系」の名称が 22 校 (18.2%) であった。

ちなみに、「畜産系」の名称としては畜産科、畜産科学科、酪農科学科、酪農経営科、生物科・畜産コースなどである。

「動物系」の名称としては動物科学科、生物生産科・動物科学コースなど。

「その他」の名称としては生産科学科、アグリビジネス科、農業科学科などである。

表5 卒業生の畜産系学科別名称と名称別進路割合(全国)

	高校数	卒業生総数(人)	進学(%)	就職(%)			
				農学系	農業関係		
学科名別	全国	121	3,169	47.9	21.6	50.4	14.3
	畜産系	37	898	49.0	22.5	48.2	18.8
	動物系	22	566	56.5	33.6	41.2	12.2
	その他	56	1,623	44.5	16.5	54.4	12.7
	不明	6	82	41.5	29.3	58.5	19.5

(注)「不明」は学科名称等がない農業高校である。

## 7 平成30年度卒業生の進路

平成30年度における畜産を学ぶ生徒の卒業生は3,169人で、男子は1,591人(50.2%)、女子は1,578人(49.8%)であった。このうち、進学が1,517人(47.9%)、就職が1,597人(50.4%)であった。進学のうち、農業系学校は684人(卒業生のうち21.6%)であった。男女別にみると男子は就職の割合が高い一方、女子は進学の高割合が高い。就職のうち農業関係は460人(同14.5%)であり、就職先の状況をみると、JA・農畜産関係団体や農業・食品関連産業への就職の割合が高い一方、雇用就農は95人(同3.0%)、自営就農は26人(同0.8%)で就農者は卒業生のうち4%程度であった。

表6 卒業生の進路(全国・ブロック別)  
進学

	卒業生総数	進学			
		うち農業系	男	女	
全国	3,169	1,517	684	728	789
北海道	301	145	80	104	41
都府県	2,869	1,372	604	624	748
東北	532	208	80	90	118
関東・東山	483	265	152	98	167
北陸	76	23	6	7	16
東海	368	170	99	61	109
近畿	419	192	75	92	100
中国	234	116	44	52	64
四国	88	45	24	28	17
九州	613	319	118	174	145
沖縄	55	34	6	22	12

就職(男女別)

	就職		
	計	男	女
全国	1,597	844	753
北海道	153	110	43
都府県	1,444	734	710
東北	322	161	161
関東・東山	215	89	126
北陸	52	21	31
東海	192	73	119
近畿	200	130	70
中国	110	55	55
四国	43	22	21
九州	289	167	122
沖縄	21	16	5

表6 卒業生の進路（続き）

農業関係の就職先の状況

	就職（農業関係の就職先の状況）					
	うち農業関係	雇用就農（農業法人）	自営就農	JA・農畜産関係団体	農業・食品関連産業	その他（外食）
全国	460	95	26	99	236	103
北海道	78	12	11	14	35	23
都府県	382	83	15	85	201	80
東北	76	15	0	21	47	39
関東・東山	65	16	4	8	36	9
北陸	15	5	2	4	5	7
東海	34	4	1	6	19	4
近畿	36	8	0	10	16	2
中国	25	6	2	8	12	4
四国	15	4	1	3	7	-
九州	115	24	5	25	59	15
沖縄	1	1	-	-	-	-

畜産を学ぶ生徒割合別にみると、畜産生徒割合が高いほど就職の割合が高かった。

表7 卒業生の進路（割合）（全国）

		高校数	卒業生総数(人)	進学(%)		就職(%)	
					農学系		農業関係
る全畜校産生徒に割合め	全国	121	3,169	47.9	21.6	50.4	14.5
	30%以上	22	660	40.9	13.5	54.1	12.9
	21~29	26	810	44.1	21.6	54.6	13.8
	11~20	51	1,382	55.4	26.6	43.9	15.0
	10%以下	22	317	39.1	16.4	60.3	17.7

## 8 就農や農業関係機関への就職に結びつく実習活動の実施状況

### (1) 総数

学校内で飼養している家畜以外を対象とした実習活動以外に、就農や農業関係機関への就職に結びつく外部の関係者との実習学習活動を実施した農業高校は116校で、行わなかった高校は5校であった。

実習活動を「外部講師による授業等」、「地域の畜産農家等での実習」、「他の農業高校や大学との連携」、「農業・食品関連企業との連携」、「その他」別にみると、「地域の畜産農家等での実習」が最も多く100校、次いで「外部講師による授業等」が89校であった。

表8 就農や農業関係機関への就職に結びつく学習活動を実施した農業高校(全国・ブロック別)

	計(延べ実施 高校数)	外部講師に よる授業等	地域の畜産 農家等での 実習	他の農業高 校や大学と の連携	農業・食品 関連企業と の連携	その他	行っていな い
全国	350	89	100	62	67	32	5
北海道	49	12	11	9	12	5	-
都府県	301	77	89	53	55	27	5
東北	41	8	14	7	7	5	-
関東・東山	54	13	17	9	10	5	1
北陸	13	5	4	1	3	-	-
東海	28	8	7	4	6	3	1
近畿	38	10	9	8	8	3	1
中国	36	10	10	6	6	4	-
四国	13	3	3	2	3	2	1
九州	72	18	23	15	11	5	1
沖縄	6	2	2	1	1	-	-

「外部講師による授業等」「地域での畜産農家等での実習」「他の農業高校や大学との連携」「農業・食品関連企業との連携」「その他」の5種類全ての実習活動を行っている農業高校は16校で、4種類は32校、3種類は33校、2種は12校であった。また、5種類の実習活動を行っている農業高校の卒業生が進学率が高く、かつ、農業系学校進学の高割合も高かった。

表9 種類別高校数・卒業生総数・進学・就職割合(全国)

	高校数	卒業生総 数(人)	進学 (%)		就職 (%)		
			農学系	農業関係	農学系	農業関係	
畜産を学 ぶ実習活 動	全国	121	3,169	47.9	21.6	50.4	14.5
	5種類	16	461	58.6	28.4	39.0	14.3
	4種類	32	1028	51.7	20.8	46.0	16.6
	3種類	33	731	41.2	20.7	57.3	15.7
	2種類	11	234	35.9	17.5	64.1	17.1
	1種類	24	646	44.6	18.3	54.0	8.7
	実施してい ない	5	69	62.3	42.0	37.7	17.4

(2) 外部講師による授業等

ア テーマ

記述されている内容を類型化してみると、最も多かったのは「その他」であり、次いで「飼養管理」、「人工授精」、「家畜競技会」、「先進事例」であった。

「その他」では地域農業の現況のほか、犬のしつけ、トリミングといったテーマも取り上げられている。

「飼養管理」では、哺育育成牛の飼養管理実習、搾乳牛の飼養管理、搾乳実習、削蹄師による牛の爪切り



「人工授精」では、人工授精、去勢の実演、受精卵採卵実習  
「家畜競技会」では、牛の見方など家畜審査に係る知識と技術  
「先進事例」では先進農家の講演、卒業青年農業経営者の講演  
イ 講師

「企業、農業法人」、「生産者」、「地方自治体」が多かった。

表10 外部講師による授業等のテーマ及び講師(全国・ブロック別)

	テーマ					講師		
	飼養管理	人工授精	家畜競技会	先進事例	その他	地方自治体	企業、農業法人	生産者
全国	34	20	15	14	35	29	38	30
北海道	4	-	2	3	5	2	7	3
都府県	30	20	13	11	30	27	31	27
東北	5	2	-	-	-	2	3	1
関東・東山	6	3	3	2	4	2	4	7
北陸	1	3	-	-	-	2	1	2
東海	2	1	-	2	4	1	4	3
近畿	1	1	3	1	8	1	4	5
中国	6	4	3	-	2	9	4	-
四国	1	2	-	1	-	2	-	2
九州	6	4	4	5	12	8	10	6
沖縄	2	-	-	-	-	-	1	1

### (3) 地域の畜産農家等での実習

#### ア テーマ

最も多かったのは「インターシップ」で次いで「飼養管理」であった。  
「インターシップ」では乳牛、肉用牛、豚、鶏を対象とした牧場での実習、  
羊の毛刈り、堆肥センターでの実習

「飼養管理」では徐糞、搾乳、給餌などの一般管理技術

#### イ 講師

生産者が最も多かった。

表11 地域の畜産農家等での実習のテーマ及び講師(全国・ブロック別)

	テーマ					講師	
	飼育管理	インターンシップ・実習	セリ実習	視察・見学	家畜審査競技	企業、農業法人	生産者
全国	31	74	3	8	15	10	99
北海道	1	14	-	-	2	1	14
都府県	30	60	3	8	13	9	85
東北	1	8	-	3	4	1	10
関東・東山	7	10	1	1	2	2	16
北陸	-	4	-	-	-	-	5
東海	1	4	-	1	2	-	7
近畿	2	6	-	-	-	-	7
中国	11	8	-	-	3	2	15
四国	1	3	-	-	-	1	3
九州	6	16	2	3	2	3	20
沖縄	1	1	-	-	-	-	2

#### (4) 他の農業高校や大学との連携

##### ア テーマ

「プロジェクト学習」が最も多く、次いで「視察、研修、体験入学」であった。「プロジェクト学習」の主なテーマを列記すると次のとおりで、様々なテーマでの学習が行われている。

- ・粒状石灰改良に向けた研究
- ・地場産未利用原料を活用した採卵鶏への飼料給与の研究
- ・良質堆肥化方法の検討
- ・ルーメン観察、直腸検査実習
- ・受精卵交流
- ・豚肉の機能性、食味を高める研究
- ・飛騨牛系統保存の取組
- ・高品質肉牛生産のための肉牛の画像解析による血中ビタミン A 濃度管理システム構築
- ・採卵鶏にオリーブ葉を粉砕したものを添加した飼料の効果検証
- ・肥育牛における血中ビタミン濃度と枝肉の関係調査

##### イ 講師

大学が大半を占めている。

表12 他の農業高校や大学との連携のテーマ(全国・ブロック別)

	テーマ			講師	
	プロジェクト 学習	視察、研 修、体験入 学	家畜審査競 技会	大学	専門学校
全国	32	22	10	60	3
北海道	4	2	-	11	-
都府県	28	20	10	49	3
東北	4	-	2	4	-
関東・東山	3	2	2	7	1
北陸	-	-	1	-	-
東海	6	-	1	3	-
近畿	4	3	2	4	2
中国	4	2	2	5	-
四国	1	-	-	1	-
九州	5	14	-	24	-
沖縄	1	-	-	1	-

(5) 農業・食品関連企業との連携

ア テーマ

「その他」が最も多く、次いで「視察・研修」であった。

「その他」の主な取組を列記すると次のとおり様々な分野での取組が行われている。

- ・ドローンの操作技術
- ・地域の農産物を給食センター、飲食店へのPR活動
- ・食品ロスを活用
- ・6次産業支援ボランティア
- ・レストラン運営体験

イ 講師

企業・農業法人が多くを占めている。

表13 農業・食品産業との連携のテーマ及び講師の性格(全国・ブロック別)

	テーマ		講師	
	視察・研修	その他	地方自治体	企業、農業法人
全国	18	29	23	55
北海道	-	3	4	9
都府県	18	26	19	46
東北	3	1	4	4
関東・東山	2	3	5	7
北陸	-	2	-	4
東海	5	8	2	6
近畿	2	4	2	6
中国	3	3	5	6
四国	1	1	-	1
九州	1	4	1	11
沖縄	1	-	-	1

## 9 就農意欲を高めるために今後充実すべき取組

就農意欲を高めるために今後充実すべき取組として、回答があったのは102校であった。このうち、「関連産業関係者との交流」が最も多く、次いで「農業高校への予算、学校施設の充実、研修費補助」、「現場実習、体験学習、飼養管理」の順となっている。具体的に取組むべき内容を例示すると、「関連産業関係者との交流」では、「地域の指導農業士や農業士、普及センターと連携」、「獣医、JA、家畜保健衛生所、地域振興局、市役所などとの技術支援連携」、「研究会、共進会に出向き酪農家、和牛の方々に直接話を聞く」、「先端技術に触れさせるため畜産試験場への見学」など学校では得られない情報を得る機会への取組を述べている。

また、「農業高校への予算、学校施設の充実、研修費補助」では、「学校の施設が老朽化」、「先端技術を教えられる施設の充実」など施設・設備の充実を要望する意見のほか、先進的な技術施設を見学するための費用の負担軽減への取組を述べている。

「現場実習、体験学習、飼養管理」では、非農家出身者が多い状況から、畜産農家と連携し農業体験することの重要性を述べている。

「就労条件の改善」では、「畜産は低賃金、休日もとれないというイメージがあり、雇用条件、労働条件の改善の必要性」など雇用環境、就業環境の改善を図ることの必要性や、「畜産経営の経営内容」といったもうかる経営内容への取組を述べている。

表14 就農意欲を高めるために今後充実すべき取組（全国・ブロック別）

	回答があった高校数	農業経営者による講演	インターンシップの充実	実習、体験学習	就職先紹介	関連産業関係者との交流	就労条件の改善	経営学 習、海外 研修、先 進地域の 研修	農業高校 への予 算、学校 施設の充 実、研究 費補助	現場に出 向き意見 聴取	新規就農 者との意 見交換	農業支援 の充実
全国	122	5	5	15	6	22	11	14	22	6	4	12
北海道	15	2	1	2	2	4	2	-	1	-	-	1
都府県	107	3	4	13	4	18	9	14	21	6	4	11
東北	15	-	-	4	-	1	1	-	3	3	1	2
関東・東山	16	1	-	1	1	3	2	4	2	-	1	1
北陸	8	-	1	1	-	1	-	2	2	-	-	1
東海	12	1	2	2	-	2	-	2	1	1	-	1
近畿	13	-	-	-	1	2	2	3	2	1	1	1
中国	12	-	1	2	1	5	1	1	-	-	1	-
四国	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
九州	24	1	-	2	-	3	1	2	10	1	-	4
沖縄	4	-	-	1	1	1	-	-	1	-	-	-

(注) 複数の回答あり